

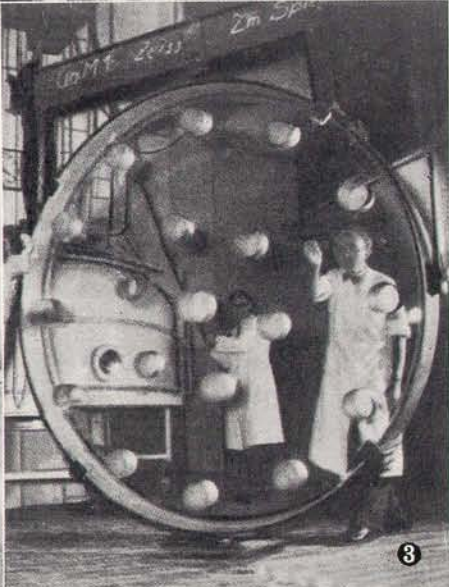
◇カール・シュワルツシルド天文台

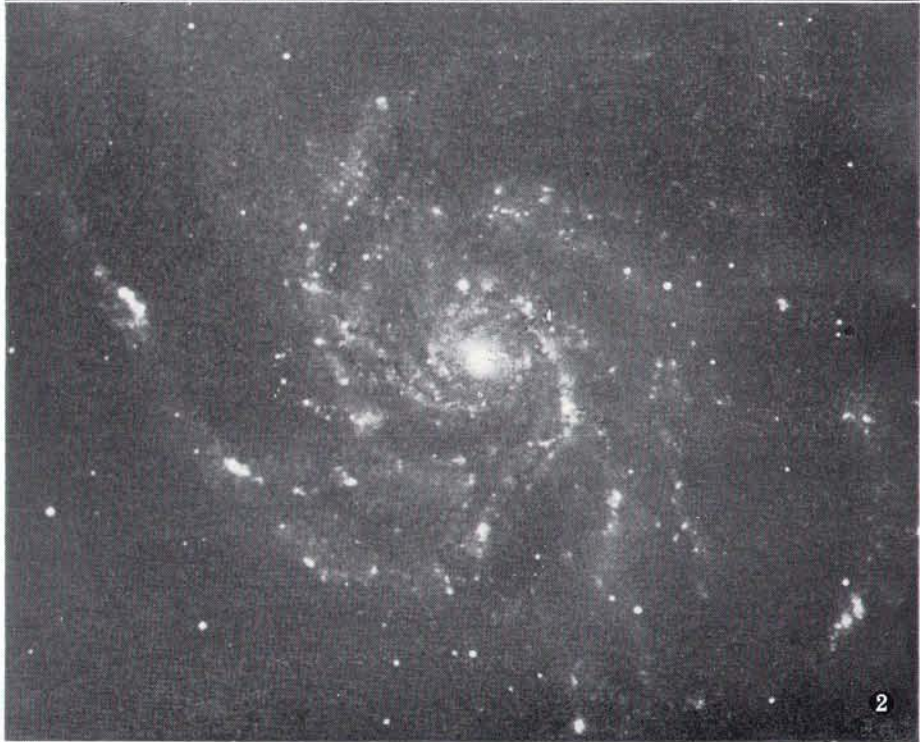
カール・シュワルツシルド天文台の2m反射鏡は万能望遠鏡 (Universal telescope) とよばれる。そのわけはシュミット補正レンズをつけてシュミット・カメラにするほかカセグレン式、クーデ式に変えて使うことができるからである。性能の概要および工場での組立ての状況は、すでに本誌第54巻第4号の月報アルバムに紹介した。シュミット補正レンズの直径1340mm、この時の焦点距離は4m、乾板は24×24cmで、写野は3.4×3.4度、カセグレンの合成焦点距離は21m、またクーデでは92mになる。天文台の位置は東経0時46分51秒、北緯50度58分51秒である。

1 この天文台の2mの万能望遠鏡

2 はそれを入れる20mドーム
(宮村氏撮影)

3 は製作中の主鏡





◇堂平写真集 (1)
東京天文台堂平観測所の 91 cm 反射写真儀の主焦点で写した写真の一部で、1 は一角獣座 S 付近の散光星雲で 20 分露出, 4.5 倍引伸し, 2 は大熊座の M 101 星雲, 15 分露出, 5.5 倍引伸し



◇池谷彗 1月3日に発見された池谷彗は2月中ごろ南緯ひくくなって、日本から見えなくなった。2月下旬に南から上ってきた時は、きわめて明るく、2月末には光度が2等まで上った。1は2月24日に東京天文台のブラッシャー天体写真儀で12分の露出、3倍引伸、2は2月27日10分の露出、2倍引伸、眼視等級は両日共約3等であった